

令和8年度 藤の木エルモ 事業計画書

1 今年度の目標

・ エルモ設立2年目を迎え、地域活動の拠点となる事務局の整備を進める。
・ エルモ予算事業により、地域活動の充実と多くの住民が参加できる事業の発展を図る。
・ 地域課題の解決に向けたコミュニティツール（アプリ）の導入を検討する。

2 ひろしまLMO運営助成金を活用する事業

1 事業名	シニア研修視察旅行「藤の木から出かけよう」	(7) 事業中(1) 事業目
2 特定地域共同活動の分類	(6) 地域の高齢者、障害者等への支援に資する活動	
3 実施期間等		
(1) 実施期間	令和8年10月20日（火）	
(2) 実施場所	中国地方の受け入れ可能な地域	
(3) 参加者数	70人（見込み）	
(4) 主催団体	藤の木エルモ、藤の木学区交友会（シニアクラブ）	
4 取組内容	高齢者の生活課題の解決に役立つ内容の研修視察旅行を開催し、高齢でも町外に出かけたり、地域の一員として貢献できる喜びや意義を伝える。なお、開催に当たっては、対象者を従来の交友会員から全高齢者に拡大し、社会参加の機会拡充を図るとともに、行程に防災学習や訪問先の住民との交流や体験学習を取り入れ、高齢化する地域の共通課題を共有し解決方を学べるようにする。	
5 目的・効果	(1) 目的（どうして実施するのか。実施する背景は何か。） 地域の高齢化が進む中、時間に余裕ができた高齢者の社会参加が重要になっている。高齢者の引きこもりや孤立化を抑えて健全な生活を保ち、社会参加を促すきっかけとする。 また、社会参加を通じて高齢者の経験や見識をまちづくりに生かしてもらい、活気あるまちづくりにつなげる。 (2) 効果（事業の実施により、地域課題の解決にどのような効果が見込まれるか。） 高齢者が近所付き合いや外出に積極的になるきっかけとなり、住民同士がいっそうつながるまちづくりに貢献する。 また、課題解決学習により見識が深まり、地域の一員としての活躍が見込める。	

2 ひろしまLMO運営助成金を活用する事業

1 事業名	シニア文化鑑賞会「お家から出かけよう」	(7) 事業中 (2) 事業目
2 特定地域共同活動の分類	(6) 地域の高齢者、障害者等への支援に資する活動	
3 実施期間等	(1) 実施期間 音楽会：令和8年6月14日（日）、演芸会：令和8年12月頃 (2) 実施場所 広島市藤の木公民館、藤の木学区内集会所等 (3) 参加者数 各30人（見込み） (4) 主催団体 藤の木エルモ、藤の木学区交友会（シニアクラブ）	
4 取組内容	高齢者がなじみやすい内容で、短時間の音楽会（年1回）と芸人を招聘して漫談などを行う演芸会（年1回）を開催し、高齢者が自宅に引きこもりがちな地域課題に対応する。 なお、実施に当たっては、公民館で実施されている生涯学習事業（年2回）と連携しながら、効果の拡大を図る。	
5 目的・効果	(1) 目的（どうして実施するのか。実施する背景は何か。） 地域の高齢化が進む中、時間に余裕ができた高齢者の社会参加が重要になっている。高齢者の経験や見識を活かせる機会を提供することで、引きこもりや孤立を防いで健全な生活を保ち、活気あるまちづくりを進める。 (2) 効果（事業の実施により、地域課題の解決にどのような効果が見込まれるか。） 高齢者が近所付き合いや外出を積極的に行うきっかけとなり、住民同士がいっそうつながるまちづくりに貢献する。 また、地域団体の会員や役員としての活躍が見込める。	

2 ひろしまLMO運営助成金を活用する事業

1 事業名	地域猫活動による住みよいまちづくり	(7) 事業中(3) 事業目
2 特定地域共同活動の分類	(7) 地域の生活環境の整備又は美化に資する活動	
3 実施期間等		
(1) 実施期間	令和8年4月1日 ～ 令和9年3月31日	
(2) 実施場所	藤の木学区内全域	
(3) 参加者数	約20人(運営ボランティアを含む。)	
(4) 主催団体	藤の木エルモ、藤の木学区町内会連合会(地域猫グループ)	
4 取組内容	把握済みの野良猫、住民からの情報提供による野良猫を捕獲し、広島市動物愛護センターに不妊手術を依頼し、メンバーによる搬送の上、捕獲場所でリリースする。 【具体的な取組】 ●捕獲(餌付け)用の餌、搬送用備品(ペットシート等)の購入 ●捕獲猫の引き取り手へのワクチン接種費用の助成(1回限り) ●広報用チラシ、ポスターの制作 【捕獲目標】 15頭(令和6年:13頭、令和7年:19頭を基に算出)	
5 目的・効果	(1) 目的(どうして実施するのか。実施する背景は何か。) 地域住民に地域猫活動を理解してもらうことにより、無責任なエサやり等によるトラブルや野良猫の増加の防止、鳴き声の騒音被害やフン尿衛生問題の改善を図り、人間と猫、その他の動物が共存できる地域環境を築く。 (2) 効果(事業の実施により、地域課題の解決にどのような効果が見込まれるか。) 野良猫の頭数を制御することにより、地域の公園及び一般家庭敷地の糞尿被害や鳴き声の騒音被害が軽減し、より住みよいまち・地域コミュニティにつながる。	

2 ひろしまLMO運営助成金を活用する事業

1 事業名	地域サポート「みんなのひろ場」	(7) 事業中(4) 事業目
2 特定地域共同活動の分類	(3) 地域住民の交流促進に資する活動	
3 実施期間等		
(1) 実施期間	令和8年4月1日 ～ 令和9年3月10日	
(2) 実施場所	広島市藤の木公民館	
(3) 参加者数	350人（見込み）	
(4) 主催団体	藤の木エルモ、藤の木学区社会福祉協議会、広島市藤の木公民館	
4 取組内容	(1) 世代間で交流できる遊び場の開催：毎月第2木曜日14時～16時（2時間） 高齢者が得意とする昔遊び（コマ回し・お手玉・あやとり・けん玉・おはじき・竹トンボ等）、子ども達が得意とするオセロ・パソコン等の遊びを通じて、小学生を中心とした地域の子ども達と高齢者が交流できる遊び場を作る。 (2) サマーフェスタの開催：夏休み（7月25日（土）） 家族・友人と一緒にできるダンスや茶道会等の体験講座を通じて、乳幼児から高齢者まで地域まるごと世代間交流を図る。	
5 目的・効果	(1) 目的（どうして実施するのか。実施する背景は何か。） 地域で見守り・声かけ活動をしている方から、子どもに「声をかけないでください」と言われたと聞いた。子ども達にとってはこの地域は知らない人ばかりになりつつあるのだと危機感を抱いたため、住民の世代間交流を図る。 (2) 効果（事業の実施により、地域課題の解決にどのような効果が見込まれるか。） 高齢者も地域参加する機会が増えて皆と顔見知りになり、団地内で子ども達を見かけた時に挨拶ができれば、住民同士がつながり、住みよいまちになる。また、皆で一つの事をやり遂げることで地域に一体感が生まれ、地域愛が醸成されることが見込まれる。	

2 ひろしまLMO運営助成金を活用する事業

1 事業名	藤の木エルモ通信全戸配布事業	(7) 事業中(5) 事業目
2 特定地域共同活動の分類	(14) (1)～(13)に掲げる活動の地域内外への情報の発信に資する活動	
3 実施期間等		
(1) 実施期間	令和8年4月1日 ～ 令和8年6月30日	
(2) 実施場所	藤の木学区内	
(3) 参加者数	1,700世帯(約4,000人)(見込み)	
(4) 主催団体	藤の木エルモ	
4 取組内容	藤の木エルモの活動区域の全世帯(町内会未加入者含む)を対象に、藤の木エルモ通信(広報紙)を配布し、藤の木エルモの事業内容等を周知する。	
5 目的・効果	(1) 目的(どうして実施するのか。実施する背景は何か。) 藤の木学区の住民(特に町内会未加入者)に藤の木エルモの広報が行き届いていない現状があるため、活動内容等について周知し、認識を深めてもらう。 (2) 効果(事業の実施により、地域課題の解決にどのような効果が見込まれるか。) 藤の木学区の地域活動への積極的な参加・協力を促し、地域コミュニティの活性化を図ることができる。	

2 ひろしまLMO運営助成金を活用する事業

1 事業名	藤の木学区ふれあい祭り	(7) 事業中 (6) 事業目
2 特定地域共同活動の分類	(3) 地域住民の交流促進に資する活動	
3 実施期間等		
(1) 実施期間	令和8年10月17日 ～ 令和8年10月19日	
(2) 実施場所	藤の木南第一公園	
(3) 参加者数	1,200人(見込み)	
(4) 主催団体	藤の木学区ふれあい祭り実行委員会、藤の木エルモ	
4 取組内容	・地元団体やゲストによるステージ発表 ・地元団体による物品や飲食物の販売 ・防災コーナーなど啓発ブースの設置	
5 目的・効果	(1) 目的（どうして実施するのか。実施する背景は何か。） 地域住民や子どもが交流する機会が減少しているため、全住民が参加できる祭りを開催し、コミュニティの活性化が図れるような事業にする。また、子どもから大人まで満足してもらい、藤の木に住んでよかったと愛着を持ってもらえるような事業にする。なお、実施に当たっては、より多くの住民に参加してもらえる方法の改善や工夫を図る。 (2) 効果（事業の実施により、地域課題の解決にどのような効果が見込まれるか。） 藤の木における一大イベントであり、多世代交流や賑わいづくりにつながる。参加した住民が地域の愛着や関心を持つきっかけとなることが期待される。	

2 ひろしまLMO運営助成金を活用する事業

1 事業名	藤の木とんど祭り	(7) 事業中 (7) 事業目
2 特定地域共同活動の分類	(3) 地域住民の交流促進に資する活動	
3 実施期間等		
(1) 実施期間	令和9年1月9日 ～ 令和9年1月10日	
(2) 実施場所	藤の木ふれあいグラウンド	
(3) 参加者数	600人（見込み）	
(4) 主催団体	藤の木エルモ、地域住民、ボランティア	
4 取組内容	・ 地域住民やボランティアによるとんどの設置 ・ 餅つきの実施 ・ 餅やぜんざい、豚汁などの配布 ・ 防災啓発コーナーの設置、消火訓練等の実施	
5 目的・効果	(1) 目的（どうして実施するのか。実施する背景は何か。） 地域交流の機会を増やす。また、とんどは多世代交流や賑わいづくりの一翼を担う伝統的な風物詩であり、多くの住民に参加してもらい魅力を再確認してもらうことで、行事が受け継がれている藤の木の良さを実感してもらう。なお、事業の実施に当たっては、より多くの地域住民に参加してもらえるような工夫を検討する。 (2) 効果（事業の実施により、地域課題の解決にどのような効果が見込まれるか。） 準備段階から地域の子どもにも参加してもらい、本行事の開催を通じて、多くの住民に地域への関心や愛着を持ってもらえる。また、子どもをはじめ多くの住民に参加してもらうことで、その参加者の中から、地域活動の新たな担い手が見つかることが期待できる。	

3 自主財源で実施する事業

年月日	事業名	特定地域共同活動の分類	取組内容